

キリストの架け橋

発行責任者：宝田 豊 yutakara@gmail.com

対外伝道ニュースレター

2017年1-3月 Vol.15

～地上での足跡～



今年の2月26日の夕方、わたしの兄が虚血性心疾患によって突然この世を去りました。甥からの連絡を受け、わたしは信じられない思いでした。享年76歳の兄は、18歳から自宅の一角を改造しそろばん塾を始めました。あの時から今年で58年になりますが、そろばんに関するさまざまな働きに携わってきました。

教会に通い始めたのも塾生によって誘われたのがきっかけで、1965年6月にバプテスマを受けました。ちょうどその頃、わたしは腰椎すべり症と腰椎分離症を発症し、医師からすべての運動を止められていたのです。そんな私を兄が、暇なら教会に来てみないか、と誘ってくれたのがきっかけで、教会に通うようになり、次の年のクリスマス（1966年12月）にバプテスマを受け、クリスチャンとしての一歩を踏み始めました。

亡くなった日は、日曜日で、礼拝後、夕方まで執事会でみんなと笑いながら元気に時を過ごしていたそうです。それから家に帰り、一人で休んでいた時に突然倒れ、その音に驚いた義姉が部屋に入った時には、既に息が絶えていたということでした。

それが、どんな死に方であっても、彼が、天国に迎え入れられたということは、確かです。その確信があるので、地上での別れは悲しいですが、悲痛というより、“お疲れ様”と静かに兄を送ることができました。

告別式に飾られていた遺影には、これまでの兄の人生そのものが映し出されていたように感じました。葬儀の中で、一番前に座っていた私は、沢山の花の中に飾られていた兄の遺影に目をやり、ここに彼の人生の足跡があるな、と感じました。写真にある兄の笑顔の中に、これまで歩んできた兄の人生が走馬灯のように私の脳裏を駆け巡りました。それは、母が、戦後、食糧難の中、兄を背負って自転車で他県まで米の買い出しに行った話から始まります。父が若くして脳溢血で倒れてからは、兄が経済的に一家を支えてきました。わたしも彼に支えられて、大学まで進学することが出来たのです。

人は、みな人生に足跡を残して、この世を去っていきます。その足跡を通して、その人の人生は、評価されるのではないのでしょうか。葬儀の後の水曜日、彼の通っていた教会の祈禱会に出席したのですが、そこに一人の女性が参加されました。この方は、お子さんが兄の塾に通っていたそうですが、告別式に参列することで、兄がこの教会に通っていたことを知り、自分も出席してみたいと思った、と言われていました。どうして兄が通っていた教会に自分も出席したいと思ったのだろうか。そこに、彼女を教会へと誘う、クリスチャンとしての兄の足跡があったのではないのでしょうか。

わたしたちは、今の世に、どんな足跡を残しているのでしょうか。わたしたちの足跡が、人々を神の愛に導くことが出来るなら、それは、何と素晴らしいことではないのでしょうか。

**このようにして、キリストの日に、わたしは自分の走ったことがむだでなく、
労したこともむだではなかったと誇ることができるのである。**

ピリピ人への手紙 2章16節



教会に居ることが大きな喜び、と言えるような群れをみんなで築いて行こうと歩みを始めています。

当教会で共に喜びある礼拝を守ってみませんか。どなたも心から歓迎いたします。

徳山バプテスト教会 〒745-0881
山口県周南市大字徳山東辻 5685-12
<http://tokuyama-ch.com>

祈りのリクエスト

- + 徳山バプテスト教会の祝福
- + 教会の必要経費の備え
- + 教会員の霊的成長
- + 新来者が与えられるように
- + 救われる魂が与えられるよう
- + 地域の人々が教会を訪れるよう
- + 被災地伝道
- + 活動経費が備えられるよう
- + テキサス州内伝道の祝福
【ダラス、アビリーン、コーバスコープ、サンアントニオ、ヒューストン】
- + 御国バイブルフェロシップ（ヒューストン）と上原牧師と先生の牧会の上に神様の祝福があるように。

主な行事予定(2017年4-6月)

- 04月16日 イースター礼拝
- 04月29日 中四国連合総会
- 05月10～13日 韓国訪問
- 06月14日 藤沢バプテスト教会祈禱会
- 06月18日 父の日礼拝
- 06月04日の徳山の礼拝には、今治バプテスト教会の今井朋恵先生が宣教に来てくださいます。
- 6月は、24日より一週間、年に一度の家族旅行に行ってきます。

摺鉢山

1月9日の祝日に、ジムで知り合った男性が、わたしを登山に誘ってくれました。そこは、しま山100選に選ばれた笹戸島にある摺鉢山(220m)です。参加したのは、わたしを



招いてくれたご夫婦を加え、全部で12名でした。お会いするのはじめての方々でしたが、わたしが牧師であると聞くと、不思議に思う人や胡散臭そうな顔をする人などいろいろでした。しかし、登山を通して、親しくなり、みなさんに受け入れてもらいました。わたしを誘ってくれた男性は、わたしが、どんな人とも問題なく付き合える人と分かっていたので、みんなに紹介することに何の躊躇も心配もなかった、と話してくれました。



登山後、ご夫妻が、車で一時間ちょっと運転した島根県の柿の里という小さな町にある柿木温泉に連れて行ってくれました。運転中に教会のこと、牧師についての疑問など、いろいろと語り合う時間が与えられました。

更に、一時間ちょっと運転して、わたしをアパートまで送ってくださり、今度、また一緒に登山に行きましようかと約束し、彼らは、帰って行かれました。

徳山に来て、こんなかたちで誰かにお誘いをいただいたのは、今回が初めてのことで、4年経って、少しずつですが、知るという段階から、人々つながりが出来る段階へと進んできたのかな、と感じています。

公民館での期待

人と出会うために、近くの公民館に通っていると以前にお話ししましたが、今回、そこで知り合った婦人の方々が、どうして日曜日は来れないのですか、と尋ねられたので、牧師にとって日曜日は礼拝があり、とても大事な日なのです、とお話させていただきました。

すると、礼拝って何をやるのですか、と尋ねられたので、わたしがお話をします、と答えると、一人の婦人が、わたしも行って聞いてみたい、と言われたのです。

実際に礼拝に出席して下さるかどうかは、まだ分かりませんが、こんなふうに教会に興味を示して下さったことに感謝しました。い

つかきと出席して下さいと願って、祈りつつ、待ち続けてまいりたいと思っています。

今、徳山に来てから、いろいろなかたちで蒔いた種が芽を出し始め、これからのことを楽しみに、また、大きな期待と共に伝道に励んでいます。

中四国連合教育研修会

3月に入り、徳山教会が属している中四国連合主催の教育研修会が、母教会である今治バプテスト教会を会場に開催されました。わたしも教会員の方と一緒に出席させて頂きました。

講師は、青野太潮先生(平尾バプテスト教会協力牧師、西南大学名誉教授、日本新約学会会長)で「パウロにおける<祈り>」をテーマにお話をされました。



帰りの車の中で、今回の講演で話されたことについて、会員の方といろいろと語り合うことが出来たのは、良かったと思います。どんなに立派な先生のお話でも、そのまま鵜呑みにすることは、避けなければならない、自らの聖書理解を基盤に話の内容を精査することは大切なことです。その意味においても、疑問も含め、いろいろと話し合えたことが、今回の大きな収穫であったと思われる。

全米南部バプテスト日本語教会連盟

3月の終わりには、日本から直接ロサンゼルスへ移動し、米国にある日本語教会連盟の牧師会に出席しました。

今回は、二人の講師を迎え、コミュニケーションスキルについての学びを中心に勉強会が持たれました。また、それぞれの宣教の地で、これまで歩んできた一年を振り返り、体験した恵みと喜び、それに問題を分かち合い、互いの為に祈りを共にしました。



一年に一度の交わりであればこそ、貴重な時間であり、出席出来たことをみんな喜んでいました。

そして、心を新たに、再び、それぞれの宣教地へ戻って行かれました。

1月の終わりに再度血液検査を行いました。結果は、何も問題がないとのことなので安心してます。クスリと運動、それに十分な睡眠をとることが不可欠のようで、現在は、血圧も安定してきています。



経費内訳 2017年01月~03月 (¥112/\$)

2016年6月までの収支	0
入金 (01-03月)	
支援金総額	7,938.43
経費 (01-03月)	
国際線+日本の国内線	4,393.93
日本の経費合計 (治療費含む)	3,577.98
徳山バプテスト教会支援金	803.57
経費合計 (10-12月)	8,775.48
収支合計 (10-12月)	-837.05
次期への繰越金	-837.05

今の宣教を始めるにあたり、決まった収入のない中で、いつまで続くか心配下さった方がおりました。しかし、それから4年、神様は、今に至るまで、働きを支え、宣教を可能にして下さっております。(ピリピ4章19節)

5年目に入り、新たな気持ちで歩み始める決意と共に、収支報告もゼロから再出発したいと思います。どうか、これからもご支援を宜しくお願い致します。

支援金は、下記住所までご送金をお願いいたします。

Japanese Baptist Church of North Texas
For Takarada Fund
6040 Alpha Rd. Dallas, Texas 75240